

国立子ども青少年図書館における利用者サービスの現況と課題

韓国国立子ども青少年図書館 情報サービス課
イ・ジョンミン

2006年の開館以来、韓国国内の子ども・青少年のための図書館サービスをリードしてきた国立子ども青少年図書館は、公共図書館への支援事業並びに子ども担当司書の再教育などを通じた間接的サービスとともに直接的な利用者サービスのモデル図書館として多様なプログラムの開発および環境整備、システム改善などで大きな成果をあげてきました。これまでの成果は、国内はもちろんのこと海外にまで広まっています。当館のサービスモデルをベンチマーキングしている多くのASEAN諸国にノウハウを伝播し、ASEAN地域の子どもの成長の肥やしとなるよう取り組んでいます。韓国から学んだ多くの読書プログラムを活用しようとするASEAN各国の努力は子どもに対する福祉へとつながり、国家の未来である子どもたちに恩恵をもたらしています。このように子ども・青少年を対象とする図書館サービスは、子どもたちの健全な成長の基盤として、国立図書館がリードして発展させていかねばならない分野であります。

この報告では、これまでの業務交流においてすでに言及した子ども青少年図書館の主な任務中の一つである国立図書館の子ども・青少年対象のサービスについて、よりいっそう詳細に取り上げてみたいと思います。

以下の本文において詳しく述べたい内容は次の通りです。

1、国立子ども青少年図書館の利用統計データに基づく利用現況と利用者サービスを直接遂行している資料室について簡単にご紹介いたします。（現況資料2012.12.31.基準）

2、近年、高齢化社会を迎える中で子どもの人口は減少し、IT技術の発達によって伝統的な書物が脅威にさらされている状況のもと、図書館利用を督励し、子どもたちに読書の環境をつくって提供するための図書館の取り組みはいっそう切実なもの

なっている実情があります。こうしたことから国立図書館として子ども・青少年サービスモデルを提示すべく、国立子ども青少年図書館のさまざまな取り組みを分野別にご紹介いたします。

3、現在の成果に基づいて、今後、図書館の利用者サービスが進むべき方向を模索してみました。

1. 現況

○ 資料室別の利用者及び利用統計

(2012.12.31現在／単位：人)

区分	2008年		2009年		2010年		2011年		2012年	
	利用者	資料利用	利用者	資料利用	利用者	資料利用	利用者	資料利用	利用者	資料利用
子ども資料室	43,082	32,0215	32,645	320,946	28,970	300,497	28,543	273,422	31,622	300,945
外国児童資料室	16,453	79,852	9,752	76,818	6,128	49,164	5,718	46,596	16,479	85,216
マルチメディア室	26,142	21,946	32,148	5,647	29,298	4,346	25,410	4,864	22,278	5,012
青少年資料室	12,421	27,518	11,819	21,861	11,711	25,785	9,043	18,189	14,841	26,708
研究資料室	4,806	5,642	4,223	5,126	3,870	4,258	3,270	8,928	4,385	6,333
書庫資料申請室	10,266	45,576	10,078	48,124	7,919	40,838	10,861	61,771	10,072	55,456
合計	113,170	500,749	100,665	478,522	87,896	424,888	82,845	413,770	99,677	479,670

上記の統計が示すように、開館当初は多くの人びとの関心と期待の中で図書館利用は盛んだったものの、その後は子ども専門図書館の設立増加と公共図書館の子どもサービスのレベル向上に伴い、国立子ども青少年図書館の利用は徐々に減ってきました。しかし、2012年に子ども・青少年のための多様なプログラムが開発・新設され、再び図書館の利用は増加しています。

○ 資料室運営

▶子ども資料室

幼児および小学校低学年対象の資料を中心に20,000冊以上の本を配置し開架制で運営しています。資料室の床はオンドルとなっていて快適に資料を利用できます。プログラムを運営する「お話の部屋」、乳・幼児資料を集めた「絵本の国」があります。

▶外国児童資料室

世界各国で刊行された児童図書と国内刊行の小学校高学年対象の資料など、合計21,000冊以上を開架制で運営しています。12言語の絵本や童話、イギリス、フランス、日本の教科書と参考書などを排架しています。

外国児童資料室・外国語資料の現況

区 分		資料数 (冊)	小計 (冊)	合計 (冊)
西洋書 (DDC)	英語	8,733	13,784	17,945
서양서 (DDC)	ドイツ語	1,336	13,784	17,945
서양서 (DDC)	フランス語	1,534	13,784	17,945
서양서 (DDC)	スペイン語	643	13,784	17,945
서양서 (DDC)	ロシア語	412	13,784	17,945
서양서 (DDC)	その他言語	1,126	13,784	17,945
東洋書 (KDC)	日本語	1,965	4,161	17,945
동양서 (KDC)	中国語	2,196	4,161	17,945

▶マルチメディア室

マルチメディアコーナー、映像音響室、体験型の童話口演室で構成されています。さまざまなメディアの資料83,746本（点）を備えてあり、各コーナーごとに原文情報データベース、衛星放送、インターネットの閲覧、資料の編集、ノートPCの利用などが可能です。

▶書庫資料申請室

開架資料室に備えられた資料を除き利用率の低い過年度の児童図書、教科書、ワークブック、児童漫画、児童逐次刊行物の308,317冊を所蔵しています。閉架制で運営しており、書庫資料を申請して閲覧することができます。

▶青少年資料室

国内で刊行された青少年対象の資料と青少年の役に立つ一般図書、外国青少年図書など19,032冊を配置しています。

▶研究資料室

国内外の児童文学、児童学、児童心理、児童教育、読書教育関連の資料と児童文学者カン・ソジョン（姜小泉）、マ・ヘソン（馬海松）、パク・ホンゲン（朴洪根）、ユン・ソクジュン（尹石重）、チョ・フンパ（趙欣坡）個人文庫資料など、合計19,000冊以上を備え、子ども青少年関連研究者および一般人が自由に利用できます。

2. プログラムの開発と運営

国立子ども青少年図書館は青少年に対し読書への関心を誘発して図書館利用に誘導するため多様な子どもおよび青少年向けプログラムを開発運営しています。

・子ども向けプログラム

① 童話の口演

子どもたちに表情・音声・身ぶりを通じて楽しさを体験させ、遊びと一緒に物語を伝えることで本への関心を呼び起こすため、童話と昔話を紹介し読み聞かせるプログラムです。このプログラムは毎週土曜日10時30分～11時30分まで、12時～13時まで子ども資料室内にある「お話の部屋」で4才～7才の児童約30人を対象に行なわれます。



童話の口演

② 演劇で読む童話

子どもたちが演劇遊びを通じて全身で本を読んでもらうことで本の内容を自然に理解し、本を読むことの楽しさを体験できるプログラムです。2007年9月、文化の月の企画イベントとして始まったこのプログラムは、年齢ごとに分けて年間16回の運営となっています。

2012年、演劇で読む童話

期 間	対 象	テーマ	選定図書	回数
3.8-3.29	6～7才児童	習慣	幸せ家族、他3冊	4回
4.3-4.24	小学1～2年	うそ	ピノキオの冒険、他3冊	4回
9.6-9.27	6～7才児童	好奇心	三神婆さん、他3冊	4回
11.6-11.27	小学1～2年	大切な命	弟を売ります、他3冊	4回



③ 本と一緒に児童劇

子どもたちがよく知っている童話をモチーフにした児童劇を提供し、子どもと親と一緒に公演を鑑賞しながら家族の時間を楽しめるようにすると同時に公演関連図書を展示して子どもたちの本への関心を高めるために用意されたプログラムです。年に4回運営しています。



本と一緒に児童劇

④ 小学・土曜読書教室

週末を活用したもので、小学生の読書能力の向上および正しい読書習慣の形成と読書プログラムへの参加を通じた図書館利用活性化のために、週5日制授業が施行された2012年から開始したプログラムです。学年ごとにグループ分けし、グループ別に20人ずつ8週単位で運営されます。教科関連の図書を一緒に読んだ後の感想共有の場、読後活動および図書館資料を活用した知識探検などの多様な内容で構成され、夏休み期間を除く毎週土曜日に運営されています。



小学・土曜読書教室

⑤ 外国文化旅行

駐韓大使館と協力して世界各国の歴史と文化を紹介し、各国の童話を読み聞かせ、食べ物や固有の衣装体験など、子どもたちが多様な世界の文化に触れる機会を提供するために用意した外国文化体験プログラムです。これまでウルグアイ、ブルガリア、ポーランド、スリランカなどを紹介してきましたが、子どもたちが地球村の一員として他国の文化を幅広く体験してみることによって他国文化への異質感を解消する時間となっています。

⑥ 英語 Story Time

外国文化と言語に自然な形で触れ、本を読んで読後活動を行うことによって自然に英語の読書能力の向上および外国資料利用の活性化をはかる意図で企画されたプログラムです。幼児向けには英語の絵本 Story Timeを、小学校低学年向けには初等英語 Story Timeを春季学期と秋季学期に分けて各32回運営しています。



英語 Story Time

⑦ お姉さん・お兄さんと一緒に読む英語の絵本

英語能力が優秀な高校生のボランティアを活用してお姉さん、お兄さんが子どもたちに英語の絵本を読み聞かせ、本に関する読後活動を行なうプログラムです。このプ

プログラムは、青少年に社会参加の機会を広げるチャンスを提供し、子どもたちが親近感をもって英語の童話に触れられるよう2012年に新設されました。

▪ 青少年対象のプログラム

これまで成人と子どもの間で見過ごされてきた青少年の利用者に対する図書館の関心が高まり、2012年から青少年の健全な成長のための多様な青少年向けプログラムを新設し、青少年を図書館に誘導しています。

① 青少年の読書サークル「感想共有の場」運営

学生たちと司書と一緒に毎月選定された1冊の本を読んで互いの考えを自由に討論する時間をもつプログラムです。当館のホームページを通じて申し込んだ中学1~3年の生徒45人が3グループに分かれて毎月第2土曜日に各グループの担当司書とともに討論を進めます。討論のテーマによって文章の作成および読書クイズなど、多様な活動を並行する「感想共有の場」活動は、青少年が定期的に本を読んでお互いの感想を分かち合うことにより思考の幅を広げ、いっそう本と親しめる機会を提供しています。

② 青少年人文学のお話

青少年を対象にしたもので、気軽に楽しみながら人文学に接することにより人文学への関心と理解を引き出すために企画されたプログラムです。青少年に図書館で開かれる人文学講座に触れさせることで自然に図書館利用の日常化をも誘導するものです。人文学分野の教授、中学・高校の教師、専門家を招請して講演などを運営しています。

2012年、青少年人文学のお話プログラム日程

数次	日付	時間	講座名
1	4. 21	10:00-11:30	詩に盛りつけられた飲食物、ペク・ソク（白石）の味わい ／ソ・レソップ（蘇來燮、蔚山大学国文科教授）
2	5. 19	10:00-11:30	生き残った動物たちの秘密／チェ・ヒョンソン （최형선、環境著述家）
3	6. 16	10:00-11:30	青少年のためのライバル世界史／カン・ウンチョン （강응진、出版企画文史哲代表）
4	7. 21	10:00-11:30	映画読みと文章書き／カン・ユジョン

			(姜由楨、文化評論家、映画評論家)
5	8. 17	10:00-11:30	Sラインを夢見る青春へ／キム・ジョンカブ (金鍾甲、建国大学教授)
6	9. 15	10:00-11:30	論語、ひとの道を拓く／ペ・ビョンサム (裴柄三、靈山大学教授)
7	10. 20	10:00-11:30	青少年よ、哲学せよ／ソ・ドンウク (徐東煜、西江大学哲学科教授)
8	11. 17	10:00-11:30	ゲーテの若きウェルテルの悩み／キム・ギョングフ (김경후、著述家、詩人)
9	12. 8	10:00-11:30	科学者の書齋／チェ・ジェチョン (崔在天、梨花女子大学教授)

③ 青少年人文学遠足

青少年の人文学に対する関心を誘導し、勉学としての人文学ではなく人生の道標となり得る思索と模索を通じて青少年が自らの夢と人生の価値を見出せるように読書と現地探訪、著者との出会いなどのプログラムを運営しています。2012年に初めて実施し、5月～11月まで18回にわたり722人が参加しました。



青少年人文学探訪

④ 青少年の専用空間、ブッカーブッカー (Booker, booker) ブログ運営

司書と青少年が意思疎通のできるオンライン空間を設けて図書館への親密感を増し、読書に対する関心を育成するため2012年4月よりポータルサイト・ネイバーに青少年専用空間の「ブッカーブッカーブログ」 (<http://blog.naver.com/bbooker>) を開設し、青少年関連プログラムおよびコンテンツをまとめて1カ所で見られるようオンラインサービスを提供しています。主なコンテンツとしては青少年資料室で行なわれている青少年プログラムの案内と後記、有名人の読書コラムや司書の推薦図書、青

少年関連文化イベントやイシュー、青少年プログラムと連携したオンラインイベントなどです。

⑤ 青少年ブログ記者団

青少年に主体的な活動機会を提供して青少年の読書振興および健全な価値観と人間性の涵養を助けるため企画されました。青少年が自らプログラムを取材・広報するもので、図書館への青少年の参加拡大および青少年ブログの活性化にも貢献しています。

▪ 特別プログラム

- ① 4月、図書館週間イベント（4.12~4.18）
- ② 5月、子どもの日イベント（5.5）／5月青少年週間
- ③ 6月、開館記念イベント
- ④ 10月、文化の月
- ⑤ 子ども読書文化祭り（2012. 9月）：韓国では2012年を「国民読書の年」と宣言しました。これに伴い国民の読書への関心を高めるため「子ども読書文化祭り」が9月の読書の月と連携して9月21（金）～23（日）の3日間にわたって開催されました。



▪ 夏休みプログラム

① 青少年の読書教室

中学生を対象としてテーマの掘り下げおよび進路・成長などに関する読書活動と体験、ヒーリングなどの内容で構成・運営しています。

② 初等読書教室

小学校高学年（4～6年生）の子どもたちを対象にテーマを選定し、テーマの掘り下げおよび本を読むことの楽しさを知らせる内容で構成・運営しています。

③ お話教室

子どもたちと司書と一緒に本を読む時間をもつことによって親密感を形成し、子どもたちの本に対する興味を引き出して、自然な図書館利用と日常的な読書習慣を形成すべく夏休みに運営しています。



お話教室

3. 読書環境づくり

・テーマ図書の展示

子どもおよび青少年の良書選びを助け、図書館への関心を高めるために特定テーマの図書を展示して関連情報を案内するプログラムで、子ども資料室、外国児童資料室、青少年資料室において各4回ずつ企画・運営するものです。昨年は「出発！ オリンピック」、「児童文学で読むニューベリー賞！」、「青少年、夢を掴む！」などを展示し、関連の特別講演およびオンライン・イベントなどを開催しました。



・読書通帳システムの運営

利用者が読書履歴を自分で管理できる読書通帳システムを運営していますが、利用

者から好評を博しています。読書通帳は読書パターン、頻繁に検索する書籍情報の分析など、利用者の情報サービスを支援しており、ウェブ読書通帳は本人の読書通帳について回数ごと、ページごとの内訳を確認できます。

▪ 仮想現実 童話口演体験館の運営

国立子ども青少年図書館では、最先端の技術が融合された仮想現実童話口演体験館を構築・運営し、公共サービスのパラダイム変化において主導的な役割を果たしています。「体験型童話口演」は大型スクリーンを通じて仮想空間で繰り広げられる多様な童話中の光景に子どもたちの動作がリアルタイムで投影され、童話の世界に直接触れるような実在感をもたらし、童話の中の主人公になってみるというものです。体験型童話口演は子どもの読書振興のためのもので、世界の図書館でも初めての新方式の童話口演サービスであり、当館では最も人気のあるプログラムです。現在8編のコンテンツ（3匹の子豚、コブ爺さんと子鬼、不思議な魔法のテント、器用な4人の友だち、オズの魔法使い、母をなくしたホッキョクグマ、チビガリバーの冒険、東海のウサギ伝）を保有しています。当館はこれからも多様なコンテンツを確保して提供することにより、いっそう多くの子どもたちの体験と参加を通じて図書館との距離を縮めていく予定です。

国立子ども青少年図書館では、たくさん子どもたちにこのサービスの恩恵がもたらされるよう、公共図書館に対して仮想現実童話口演体験館の運営を支援しています。これまでファソン（華城）市トントン（東灘）複合文化センター、忠北中央図書館、ウォンジュ（原州）市テジャンマル図書館、ハドン（河東）郡青少年修練館、パジュ（坡州）市ムンサン 汝山）図書館、チョンジュ（全州）市立アジュン（牙中）図書館の6館に体験館運営のためのコンテンツを提供しました。



▪ 快適な室内空間づくり

近年、国立子ども青少年図書館は子ども図書館の環境改善をリードし、視覚効果に敏感なデジタル世代の子どもたちにとり図書館が訪ねたい空間として生まれ変わるべく各種のインフラ改善に取り組んでいます。その一環として図書館の施設やサイン（Sign）デザインなどを子どもの感覚に合わせて変更し、利用者の便宜を図るため設備を拡充しました。



4. 研究支援および教育連携サービス

▪ 親のための読書文化講座

子どもと親が本とよりいっそう親しみ、子どもたちが楽しい読書を通じて正しい読書習慣を形成できるよう支援するため、親および関心のある一般人を対象に運営しています。

▪ 図書館見学

図書館への理解と関心を高め、図書館利用の活性化をはかるために見学プログラムを運営しています。見学は図書館の紹介および広報映像の上映、図書館の利用手続き並びに資料の利用方法、運営プログラムの案内、子ども資料室などの施設見学および資料室での資料の利用などで構成されています。年間5,000人以上が利用しています。

▪ 研究者および司書のための情報サービス

① ウェブマガジン<子ども青少年研究 e-Partner>サービス

2007年11月1日に創刊して毎月発行しているウェブマガジン<子ども青少年研究 e-Partner>サービスは、子どもと青少年を対象とする関連の研究者およびサービス担当者たちの研究活動を支援するため、子ども、青少年、読書、図書館、児童文学などの関連情報を提供する電子ニュースレターです。全体の内容はテーマ&所蔵資料、本・論文の紹介、逐次資料の目次情報、情報ガイド、研究界便りなどで構成され、ホーム

ページ (<http://www.nlcy.go.kr>) に掲載する一方、子ども・青少年関連の研究者などに電子メールで送・配信しています。

② 個人文庫の設置

子ども・青少年文学分野に散在している個人所蔵の貴重な資料を発掘・収集・整理し、国家文献資料として保存・伝承するために 2006 年から児童文学者カン・ソジョン（姜小泉）、マ・ヘソン（馬海松）、パク・ホングン（朴洪根）、ユン・ソクジュン（尹石重）、チョ・フンパ（趙欣坡）先生の愛蔵図書の寄贈を受けて個人文庫を設置・運営しています。個人文庫に寄贈された資料は現在国内児童文学研究者たちに貴重な資料として活用されています。



ウェブマガジン 子ども青少年研究 e-Partner



個人文庫

・司書の推薦図書

各資料室の本のうち、子どもと青少年と一緒に読んでほしいと思う本を幼児、小学校低学年、小学校高学年、青少年向けにそれぞれ分けて、毎月当館のホームページを通じて紹介しています。2012年の夏休みには、夏休みに読む価値のある推薦図書90選（小学校・低学年、小学校・高学年、青少年、各30選）を選定して来館した利用者に提供し、各種の子ども・青少年イベントにも提供しました。

・読書クイズの運営

子ども・青少年の読書意欲をかきたてて本を読む楽しさと読書の日常化に貢献し、図書館に来館することが困難な子ども・青少年にホームページへの接続を通じた読書機会を提供するため毎月1回読書クイズを運営しています。子どもを対象とした「クリック！ 子ども読書クイズ」は毎月子ども電子図書館の電子ブック1種から、「青少年読

書クイズ」ではホームページの「司書が推薦する本」と「1318図書館占領地図」の中から2冊の図書を選定して問題を出題するものです。クイズの当選者には所定の賞品を進呈しています。

5. 利用者サービスの拡充および課題

・館外サービスの拡大

① 社会的弱者階層の子ども向け、図書館と一緒の読書

全国の公共図書館を支援している当館の「図書館と一緒の読書」事業の一環として、社会的弱者階層の子ども向けに子ども読書振興のモデル図書館としての役割を果たすべく2013年から運営しています。本事業は図書館利用が困難な社会的弱者階層の子どもたちに図書館利用の日常化のための教育と文化・芸術享有の機会を提供し、読書文化における格差解消の牽引車の役割を果たすものとして期待されています。

② 子ども・青少年関連イベントに司書推薦の図書を提供

子どもと青少年の健全な成長に役立つ良書を広く普及するため、子ども・青少年関連イベントに司書推薦の図書を提供しています。2012年文化体育観光部が主催した『多文化、一般青少年がともにする1泊2日微笑みキャンプ』、『文化芸術教育キャンプーゴツゴツ』、休暇シーズンの『森の文庫』などに子ども・青少年の情緒涵養のための図書約850冊を提供しました。

・図書館インフラの先進化

国立子ども青少年図書館は2013年にホームページを改編し、玄関にキオスク（訳注：タッチスクリーン方式の情報伝達端末）を設置するなど、子ども・青少年のためのスマート図書館サービスを活発に推し進めています。また、子ども・青少年の教育に役立つアプリケーションの開発、デジタル機器の最新化など、インフラの先進化にも力を入れています。

・先決課題

子どもサービス向上のため、まず考慮すべき部分は次の通りです。

- ① 子ども図書館サービスを担当する専門司書の養成および配置が伴わねばなりません。子どもに対する情報提供および読書指導サービスは担当司書の力量によってサービスの質が左右されます。したがって、図書館にとって専門司書の養成と配置は今後図書館の人材管理に反映すべき部分と言えるでしょう。
- ② また国立図書館が開発した各種図書館および読書プログラムを全国の図書館で活用できるよう、制度的・行政的・予算的な支援対策が伴えば、国内における図書館利用の活性化につながると考えられます。さらに長期的な観点から見ると、教育と福祉に対する国民の期待に図書館が貢献することとなるでしょう。